NPO 法人 おおさかこども多文化センター　Newsletter

OKoTaC 通信　NO.1

オコタック

2011 年 10 月 10 日発行

この号の内容

はじめまして！おおさかこども多文化センターです ……p2
NPO 法人おおさかこども多文化センター第 1 回総会報告 ……p3
「高校生のための日本語」夏期講座報告
多文化な子ども@大阪のニュース ……p4
『第 5 回タイ語母語教室中学生・高校生交流会』
『WaiWai！トーク part1』
『第 2 回中学生多言語スピーチコンテスト』（八尾市）
『帰国・渡日生徒のための進路支援説明会』 ……(p5)
海外子ども事情　『MY LIFE HISTORY』 ……p5
Air Mail　メキシコ便り①　『メキシコ生活　始まりました！』 …p6
地域の子ども支援教室から①　……p7
多文化な子どもへの学習支援教室『サタディクラス』（大阪市中央区）
イベント情報 ……p8

はじめまして！　おおさかこども多文化センターです

ＮＰＯ法人 おおさかこども多文化センターは、外国にルーツをもつ子どもを対象とする日本語・母語教育の支援を行うため、2011 年 2 月に設立されました。
私たちは、異なる言語・文化を持つ住民が共生する社会の形成をめざしています。

☀ 外国にルーツをもつ子どもって、たくさんいるんですか？

2009 年末、大阪府内の小中高校に在籍する外国籍児童生徒は 1 万人を超えています。「日本語指導が必要な児童生徒」は 2300 人といわれていますが、実際に困難を抱える子どもはもっと多くの数になると思われます。

☀ 子どもたちが抱えるしんどさとは？

彼らの家庭の多くでは日本語以外の言葉が使われており、子どもの学習支援が難しい家庭も少なくありません。日本語の日常会話ができても、学校の勉強に困難を感じている子がとても多いです。

また 留学生などとは違い、彼らの多くは自らの意思ではなく、親などの事情で来日した子どもたちです。学習意欲や日本の学校への関心を持続させることが難しいケースもあります。

さらに、日々圧倒的な日本語・日本文化の圧力のもとで生活する中で、自らのアイデンティティーの揺らぎや、親との母語によるコミュニケーションが失われるといった問題を抱える子どもたちも増えています。

☀ おおさかこども多文化センターは、どんなことをしているの？

子どもたちへの日本語・母語教育の支援のため、さまざまな活動を展開しています。 また、これらの活動を通じて、子どもたちをサポートする人々同士のネットワークづくりも進めていきたいと思っています。
右ページの総会報告・活動紹介もご覧ください。

☀ 外国にルーツをもつ子どもたちのこと、もっと知りたい、支えたい方へ…

多様化する子どもたちの現状に対応するには、いろいろな方のお知恵と経験が必要です。ぜひ会員になって、情報交換に参加してください。
活動を一緒につくってください。
皆さまの力をつなぎ、
大阪から“こども多文化”の風を
吹かせましょう！

NPO法人 おおさかこども多文化センター

入会金　1000 円
正会員　年会費　3000 円
賛助会費　一口　1000 円

＊ 会員の皆様には、本紙や講座等の案内、多文化な子どもに関するニュースなどをお届けします。また センター所蔵の各種資料もご利用いただけます。詳しくは、巻末記載の連絡先までお問い合わせください。

第１回総会報告

おおさかこども多文化センターの初めての総会が、6 月 18 日、事務局を置く「piaNPO」で行われました。まず事業報告がなされ、会計報告、活動計画、予算案、理事選任の順に報告・提案が行われ、すべて承認を得ました。会場からの質問の主なものをあげると、以下の通りです。

現在入居している「piaNPO」が耐震性能の関係から 2012 年 1 月で閉館になるので、移転先をどのようにするか。 会員へのサービスはどのようにするのか。 事業費を会員からの寄付金に依存しすぎていないか。 事業を委託している行政からのインフラ支援はどうなっているのか。

現在、おおさかこども多文化センターの中心事業は、大阪府立高校の外国にルーツを持つ生徒に関する支援センター「ピアにほんご」の運営です。今後、小学校・中学校・市町村教育委員会からの照会にも応え、情報を提供する役割を果たしたいと考えています。しかしながら委託を受けている行政からは、今年度の事務所にかかる家賃等の費用は考慮されておらず、人件費等も十分ではありません。会費および寄付金で何とか運営していますが、来年度以降もこの状態では維持できません。そして、一番困るのが「こどもたち」であることを忘れてはならないと思います

おおさかこども多文化センターでは、今年度、文化庁委託事業として「高校生のための日本語」「日本語指導ボランティア養成講座」など様々な活動を展開しています。
末永く活動したいと考えています。 (Yn)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

２３年度文化庁「生活者としての外国人のための日本語教育」委託事業

「高校生のための日本語」夏期講座報告

7 月 25～29 日の 5 日間、大阪市市民交流センターにおいて、夏期講座を開催しました。

1 日目は、日本語レベルチェックテストを実施、防災に関する日本語を学びました。 2 日目は、阿倍野防災センターに見学に行き、地震の怖さを体験しながら防災の勉強をしました。阪神淡路大震災を再現した震度を体感できるコーナーでは、参加者一同「怖かった！」の声。防災に関する知識を、経験を通して学ぶことで、日本社会で暮らしていくための知恵が備わったと思います。

3 日目のアルバイトや仕事で使われる日本語学習では、求人票の見方や面接の模擬体験、履歴書の書き方、電話のかけ方などを学びました。4 日目は社会（地理）で、テーマは「自分たちは世界のどこから来日したの？」。彼らの母国からまず、日本、近畿地方、大阪府、大阪市、そして自分たちの住む町へとその順路をたどりながら、町の場所と名前について学んでいきました。また、「病気になったらどこの病院に行く？」をテーマに、問診表の書き方、病院で医者と話すための日本語などについて勉強しました。

最終日は、防災センター見学の感想や防災について作文を書き、それを全員の前で発表しました。作文も発表もみんな一生懸命に取り組んでいました。

参加者は11名と少なめでしたが、初日には緊張していたにもかかわらず、最終日にはお互いに打ち解けあい、言語、高校が異なっていても、共通の日本語で楽しく交流し、「みんなと一緒に日本語を勉強してとても楽しかった！」と、夏の講座を無事終えました。 (M)

多文化な子ども＠大阪 のニュース

『第５回タイ語母語教室中学生・高校生交流会』

6 月 21 日、大阪市立豊崎中学校で、中学生、高校生、保護者、教員、母語支援者、タイ領事館、大学院生ら約 40 名が参加し交流会を行った。回数を重ねるほどに人数が増え、教室は熱気一杯。先輩の姿から自分達の進路を考える機会としての企画だが、久しぶりの仲間と楽しそうに話し、自分の高校生活を緊張して報告し、みんなが思い切り楽しんだ一日になった。「来年はもっといい報告するから」とか、「来年は絶対高校生になって、また来るから待っててな」とかの言葉を残して行った子どもが、来年さらに成長した姿で帰ってきてくれるのが、楽しみだ。　(Yj)

『Wai Wai！トーク　Part1 』

7 月 9 日、府立住吉高校を会場に「WaiWai！トーク part1」が開かれた。この行事は、高校に在籍する外国にルーツのある生徒たちが、母語（継承語）で自分の思いを伝えるもので、今年で 10 回目。中国語、フィリピノ語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語、タイ語など、ここで話される言葉はまさに大阪の「国際化」を象徴している。

聴衆は日本語と発表される言語の両方で書かれた文集を手元に置いて聞く。言葉は理解できなくとも、生徒たちの思いは十分に伝わってくる。出身国の友人との別れ、日本の学校で経験した悩みや苦しみ、家族の問題など、さまざまなテーマで語られるが、そのすべてが私たちの心に響くものであった。涙を流しながら切々と訴える生徒、楽しい思い出を本当に楽しそうに語る生徒、力いっぱい自分の考えを主張する生徒など、日頃は教室で目立たない生徒も、この日ばかりは主役だ。

使われる言葉は、来日してあまり年数のたっていない生徒はとても流暢な言葉だが、長く日本で暮らしていて母語を忘れかけている生徒は、滑らかではなくても訥々と私たちに語りかけてくれる。「私は母語を奪い返す」、そんな思いも伝わってくる。

この Wai Wai！トークの参加希望者は毎年増えている。 7 月の part1 は 2, 3 年生、1 月の part2 は 1 年生と年 2 回開かれる。在籍数の多い学校では校内選考会を開催するところもあるそうだ。発表者全員に大阪府教育委員会から表彰状が、優秀賞・最優秀賞に選ばれた生徒には、主催団体の「大阪府立学校在日外国人教育研究会（府立外教）」から賞状と盾が授与される。　(O)

『第２回 中学生多言語スピーチコンテスト（八尾市）』

8月3日午後、八尾市生涯学習センターで猛暑の中、八尾市内の多数の中学生、 教員など関係者が集い、このスピーチコンテストに向けて練習した成果を競った。

コンテストは2部構成で行われ、1部は一般生徒による英語スピーチコンテスト、2部は渡日生徒の母語による多言語スピーチコンテストであった。1部2部とも生徒はすばらしいスピーチを披露してくれ、生徒のそれぞれの語学力に驚かされるほどであった。

2部では一人が英語で、二人が中国語で発表したが、自分の将来の夢にむけ今おこなっていること、中国での先生の思い出と渡日して間もないころに声をかけてもらった日本の友達のこと、東日本大震災をきっかけに命について考えたあと行った 修学旅行先の沖縄で感じたことなど、それぞれの思いが聞いている側にも十分伝わってきた。今回出場した生徒は是非とも高校生になれば『Wai Wai！トーク』に挑戦してほしいという思いを強くした。　(H)

『帰国・渡日生徒のための進路支援説明会』

6月19日、大阪府立桃谷高等学校において教育委員会児童生徒支援課主催で開催された。生徒約100名、教育委員会、高校教員、通訳者など関係者が50名ほど、主催者の予想をこえる参加があり、熱心に各大学の説明を聞いていた。参加大学は大阪商業大学・大阪女学院大学・阪南大学・プール学院大学・桃山学院大学・関西大学・関西学院大学・立命館大学。

当日は、まず入試全般についての情報と各参加大学からの簡単な説明、その後、参加者は大学別に各教室に分かれ説明を受けた。大学側からは入試方法、特に特別枠入試の有無やAO入試、推薦入試、一般入試などについて詳しい説明が行われ、質問もあり参加者の意欲を十分に感じることができた。

大学進学において、渡日生徒は一般生徒に比べ、情報量は圧倒的に不利な状態に置かれている。どのような大学があり、どのような入試方法があるのか、あるいは日本語力のハンディのある生徒にとって受験可能なのかどうか等、知りたい情報を即座に入手できる状態ではない。そのような中で開催された今回の説明会は、渡日生徒たちにとっては非常に有意義な1日になったはずだ。

一方、生徒を指導する高校にとっても渡日生徒の進学実績、情報などが不足している場合もあり、的確な情報を得たい願いは生徒と同じ状況である。そのような生徒、学校側の要望に応えて実施されたのがこの企画であった。参加者はそれぞれ、満足度の違いはあろうが、情報を得る手がかりはついた様子であった。

府教委には来年も同様の企画を実施していただきたい願いを伝えたい。また、今回は進学についての内容であったが、高校現場からは是非、就職についてもこのような企画が必要であるとの声があがっていた。 (H)

海外子ども事情

『 MY LIFE HISTORY 』 （大阪市立豊崎中学校 帰国した子どもの教育センター校 教諭、おおさかこども多文化センター会員・矢嶋ルツ）

タイのチェンライへ行くきっかけは、チェンライから豊崎中学校に来た女の子だった。母親が離婚し日本国籍の彼女を呼び寄せたのだが、彼女は日本での生活になじめなかった。ひょんなことから、チェンライの TJC(タイ日国際児)の支援をしている人から連絡があり、彼女の来日前のタイでの生活を知ることになった。日本学術振興会助成金が取れたこともあり、以前から日本語教室に来る子ども達の背景を知りたいと思っていた私達はタイへ行くことにした。子ども達が学んだ学校、育ったおばあちゃんの家、友達などを訪ね、子ども達が自分の慣れ親しんだ場所から、突然引き離されて新しい環境に入らなければいけない心の葛藤の大きさを改めて知った。

北部タイは日本への出稼ぎの多かった所で、雨季の田んぼがきれいな村をピックアップトラックで走っていると、この家の女性も日本へ行った、ここにもTJCがいるなどと説明され、日本へ行った人があまりにも多くびっくりした。そのまま日本に残った人、10年以上たって帰国したが地域になじめない人、また他の国に出稼ぎに行く人・・・。親達の不安的な状況がそのまま子ども達の厳しい状況に繋がっていることを実感した。タイで会った子ども達もそれぞれ重い生活を抱えタイと日本の間でゆれながら生活していた。

タイの現地調査に行きだして3年目の今年、タイ現地NPOの「TJCである自分を見つめる」ワークショップに参加した。親との葛藤や今の自分の経験を「MY LIFE HISTORY」として語る子ども達、それを聞き入る子ども達がまた語りだしていく姿に、子どもの成長を感じた。自分自身を見つめる事と仲間の大切さが、子どもが生きる力を育てることを改めて感じるタイ訪問だった。

Air Mail ～さまざまな国の人々・文化・子どもたち…
海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り①『メキシコ生活 始まりました！』

（おおさかこども多文化センター会員・金野広美）

真夏の日本を発ち、私はこちらに来てはや2週間がすぎました。ここは 2,200 メートル余りの高地にあるため、着いて2、3日は頭痛が続き、寝てばかりいましたが、最近はすっかりここでの生活にも慣れてきました。こちらは今は雨季。夕方にはスコールのような激しい雨が降りますが、それもいっときのことで、後は湿気のない快適な気候です。

私の住んでいるのはメキシコシティーの中心街でとてもにぎやかなところです。着いた時は、お祭りでもあるのだろうかと思ったほど、洋服や靴、お菓子などを売るたくさんの屋台が所せましと通りの両側に軒を連ね、手でタコスをほおばる多くの人たちが、おしゃべりに花を咲かせています。また、CD、DVDを売る店は大音響で音楽をかけながら人を集めています。しかし、これはお祭りの縁日でもなんでもなく、日常の風景でした。地下鉄やバスの駅、市場、観光地など人の多いところには、テントをはっただけの屋台があふれているのでした。人々はよく食べ、よくしゃべり、いつも音楽にあわせ身体を揺らせています。道路は車であふれ、信号は無視され、人々は止まった車の間をすいすいとぬけていきます。そして、土曜、日曜ともなると、公園ではマリアッチの楽団の演奏にあわせて、老若男女がダンスを楽しんでいます。ここは、働いている時以外はいつもお祭り状態なのです。

3日前には、街全体が世界遺産にもなっているグアナファトに小旅行してきました。ここはメキシコシティーから北西にバスで5時間。その昔、銀山で栄えた街で 1810 年に成し遂げられたスペインからの独立運動の始まったところでもあります。街中に張り巡らされた地下水道が、今では道路として使われ、バスやタクシーなどが忙しく行き来し、すっかり生活道として定着している珍しいところです。街には赤や黄色、ピンク、緑など色とりどりの家があふれ、とても楽しい気分にしてくれます。

ここもまた、金曜の夜から日曜にかけては、音楽にあふれた街になります。私がこの街に着いたのがちょうど金曜の夕方。広場ではコンサートが始まっていました。ギター、マンドリン、ウッドベースをかかえ、中世の騎士風の服を着た12人の男たちがセレナータを演奏し、そのそばでは70過ぎ位のおばあちゃんが踊っています。30分も演奏すると、彼らが、ちょうど鳥が尾を上にたてたような瀬戸物の容器にワインを入れ50ペソ（日本円で約 500 円）で売り出しました。CDを売るならともかく、いったい何なのだと思っていると、彼らは演奏しながら歩き出し、客は手に手にその容器を持って、彼らの後をついていきます。そして、迷路のようになっている小道を、音楽を聴きながら、鳥の尾っぽの先からワインを飲みつつ移動していきます。それは昔、チンドン屋について行き、帰り道がわからなくなった遠い日々を思い出させる懐かしい出来事でした。

また、ここでは毎年10月に国際セルバンテスフェスティバルが開かれます。海外から多くの音楽家やダンサー、俳優がやってきて、芝居やコンサートが約1ヶ月にわたって催されます。私もキューバのフルバンド、アルゼンチンタンゴの楽団、メキシコのジャズトリオとメキシカンダンスの4枚のチケットをゲットしました。これだけ買っても日本円で 8,800 円ほどです。安いでしょ。バスで5時間かかりますが、何の苦もありません。

このように、毎日メキシコ生活を満喫している私ですが、来週の月曜からはいよいよ学校が始まるので、先生のスペイン語がさっぱりわからないという苦学の日々になると思います。

（つづく）

かねの　ひろみ：　37 年間勤めた会社を 2007 年はじめに退職、同年８月から 2009 年 12 月末までスペイン語を学ぶためにメキシコに行く。勉強のかたわら中南米を一人旅。
メキシコを中心にさまざまなラテンアメリカの姿をリポートしてくださいます。お楽しみに！

多文化な子ども あつまれ！　～地域の子ども支援教室から～ ①

多文化な子どもへの学習支援教室『サタディクラス』（大阪市中央区）

毎週土曜日の午後、中央区子ども子育てプラザ3階の部屋に、タイ・ブラジル・コロンビア・ペルー・中国・台湾等にルーツを持つ子どもたち約10名が三々五々集まってきます。

～科学実験スペシャルデー～

子どもたちは、ボランティアの支援者とマンツーマンを原則にして、日常のなんでもないこと、自分自身のこと、親との悩み、友人のこと等々を話します。また、日本語の言い回し、友だちに言われたことばの意味、数学の解き方、社会・理科の学習用語の読み方などをアドバイスしてもらいます。それぞれの子が、今自分が話したいことを話し、聞きたいことを聞くことができる、つまり居場所としての機能を果たすことが目標の一つです。

子どもたちは日本生まれの子もいれば、小学校や中学校年齢で編転入している子もいます。さらに母国で中学校を卒業後渡日して高校に進学を希望する子もいます。日本生まれや小学校低学年で渡日の子たちは彼らがルーツとする国の文化習慣の習得、複数の言語獲得への課題も多く広範囲の支援が必要です。来日後間もない子たちは生活日本語と学習日本語を早急に身につけ、精神的な落ち着きが得られるように、また中学校卒業後渡日の子たちは日本語の習得は勿論、日本の学校の流れや進路情報を知り日常の規則的な生活を保つための助言が必要です。いずれの子たちも高校へ進学していく上での支援が二つ目の目標です。

今の場所での活動は 7 年目となり、ボランティアは、かつてサタディクラスに来ていた学生、府大の V-station の学生、日本語教師、現役・退職教師、NPO 関係者、一般企業関係者と多彩です。子どもは可愛いい反面、思うようにならないことも多々あるのですが、ふれあいが楽しいというのがみんなの一致した感想かと思います。子どももおとなも気軽に土曜日の午後のぞいてみてください。待ってます！　〔代表　坪内好子〕

★連絡先：　特定非営利活動法人多文化共生センター大阪

TEL：06-6390-8201　Fax：06-6390-7850　E-mail：osaka@tabunka.jp

編集後記

おおさかこども多文化センターが発足して 8 ヶ月になろうとしています。外国にルーツを持つ子どもたちをとりまく様々な状況を　より多くの方々に知っていただき、また彼らを支える人たち同士のネットワークを広く築いていくために、このたび　この広報紙『OKoTaC 通信』を発刊するはこびとなりました。　今後、皆さまからもお知恵やご意見をいただきながら、多文化な子どもをめぐる情報や体験を共有しあえる場に、そして子どもたちの気持ちを伝えうる場にしていけたらと願っています。（編集部一同）

★★ 協賛金のお願い ～『OKoTaC 通信』は皆さまの協賛金で支えられています ★★

紙面作成のための協賛金（一口 2,000 円）を、随時募集しております。

2 ヶ月に 1 回、約 1,000 部発行予定の本紙に、一口につき 1 枠（縦約 3cm×横約 6cm）の広告を掲載させていただきます。配布先は、NPO の会員のほか、各自治体の国際交流協会、市民センター・図書館などの公共施設等を予定しています。

（広告例：1 枠→）

おおさかこども多文化センター
OKoTaC 通信　協賛金募集

Tel&Fax. 06－6586－9477

あたたかいご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

☆　お申し込み・お問い合わせは、おおさかこども多文化センター（次ページ巻末参照）まで、よろしくお願いいたします。

イベント情報～おおさかこども多文化センター、および関係団体主催のイベントです～

▼「高校生のための“一日防災教室”」（文化庁委託事業）

地震や災害のときに必要な知識や日本語を、体験を通じて学びます。
外国にルーツをもつ府内の高校生（阿倍野防災センターに初めて行く人）なら誰でも参加できます。

日 時 ： 10月29日（土） 12:00集合～16:00
場 所 ： 大阪市立 阿倍野防災センター、阿倍野市民学習センター
参加費： 無料
参加申し込み： 10／21までに Tel・Fax・E-mail・郵送のいずれかで。
主催・申し込み先： NPO法人 おおさかこども多文化センター（巻末参照）

《予告》12月23、24日には「高校生のための日本語・冬期講座」を実施します。
詳細は次号でお知らせします。お楽しみに♪

▼「多言語進路ガイダンス」

府内中学生のための高校入試制度についての説明会。府内7地区で開催します。

○豊能地区 11/5（土）13:00～16:00 とよなか国際交流センター
○三島地区 11/6（日）13:30～16:30 山田夢つながり未来館
○北河内地区 10/16（日）13:00～16:00 四条畷市市民総合センター
○中河内地区 11/1（火）19:00～21:00 八尾市立桂中学校
11/7（月）19:00～21:00 八尾市立高美中学校
12/10（土）9:30～15:00 希来里（東大阪市）
○南河内地区 10/30（日）13:00～16:00 富田林市消防署本部
11/13（日）13:00～16:00 富田林市消防署本部
○泉北地区 10/30（日）10:00～12:30 堺市立南図書館
○泉南地区 10/23（日）13:30～16:00 府立佐野高等学校

主催・問い合わせ： 大阪府教育委員会 児童生徒支援課 Tel 06-6941-0351（代）

NPO法人 おおさかこども多文化センター
代表 村上 自子
〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 piaNPO 421号
Tel / Fax 06-6586-9477
E-mail osakakodomo@gmail.com
URL http://www.osakakodomo.sactown.jp

地下鉄中央線「大阪港駅」下車
④出口から西へ300m

郵便振込 【記号】14140【番号】68893051
（他金融機関からは【店名】四一八（ヨンイチハチ）【店番】418
【預金種目】普通【口座番号】6889305）

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』
〔ﾌﾘｶﾞﾅ：トクヒ）オオサカコドモタブンカセンター〕